

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ②

高谷中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第2回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和2年2月19日(水) 17時00分～18時30分
- 2 会 場 市川市立高谷中学校
- 3 構 成
 - ・委員長：大学教授
 - (19名) ・委員：各学校(高谷中・信篤小・二俣小)の学校運営協議会代表
- 4 内 容
 - ・報告及び協議
 - ・主に義務教育学校設置に係る課題及び今後の協議の進め方について共通理解をしました。

5 報 告

(1) 報告の概要

① 児童生徒数推計について

- ・推計は、年齢別人口の加齢に伴って生ずる年々の変化及び入学者割合を計算して算出しています。

児童生徒数・学級数推計		※令和1年度は実数(5月1日現在)															
		※入学者割合はH29～H31の平均										※学級数は普通学級数					
学校名	入学者割合	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
信篤小学校	83.1%	児童数	731	710	697	676	685	676	670	659	639	610	594	586	580	576	571
		学級数	24	22	22	21	22	22	22	22	20	18	18	18	18	18	18
二俣小学校	74.1%	児童数	236	234	231	235	232	236	245	230	224	216	216	214	212	210	209
		学級数	10	10	10	10	10	10	11	10	10	9	8	8	8	8	8
高谷中学校	68.4%	生徒数	457	450	448	401	381	361	333	300	273	263	263	253	241	236	230
		学級数	14	13	13	12	12	12	10	10	9	9	9	9	9	9	8

② 施設分離型による義務教育学校運営の事例について

- ・施設分離型による義務教育学校の多くは、5年生までが小学校校舎、6年生からが中学校校舎で学ぶ5-4制を取り入れ、小中一貫教育を進めています。

学校名	特徴
茨城県 笠間市立みなみ学園義務教育学校	○5-4制 ・1～5年生は小学校校舎 ・6～9年生は中学校校舎 ※校舎間約800m ○教科担任制 ・小4から一部教科担任制(音楽、図工等) ・小6から教科担任制 ○特例教科 ・小1から英語や郷土学習を実施
大阪府 東大阪市立義務教育学校 くすは縄手南校 東大阪市立義務教育学校 池島学園	○6-3制 ・1～6年は小学校校舎 ・7～9年は中学校校舎 ○教科担任制 ・6年生から一部教科担任制(小学校校舎内で実施) ○独自の教科 ・「夢TRY科」を実施(防災、金融、社会保障など)
兵庫県 姫路市立四郷学院	○5-4制 ・1～5年生は小学校校舎 ・6～9年生は中学校校舎 ※校舎間約100m
鳥取県 鳥取市立鹿野学園	○5-4制 ・1～5年生は小学校校舎 ・6～9年生は中学校校舎 ○独自の教科 ・「表驚科」を実施(地域にある演劇、伝統芸能、工芸など)

③ 系統性・連続性を重視した学習

- ・塩浜学園では9年間を見通した年間指導計画を作成して指導に当たっています。この取組によって、全ての教員が、「自分の学年の指導事項がどのように上の学校・学年に結びついているのか」「自分の学校・学年の学習を行う上で、どのような基礎知識を下の学校・学年で習得しているのか」といったことを把握し、つまづきを速やかに解消する指導や既習事項を意識した指導の充実につながっています。また、小中学校双方の教員が授業を参観し、指導方法の改善に向けた話し合いを行っています。



(2) 協議の内容 (○：委員長及び委員 ●：事務局)

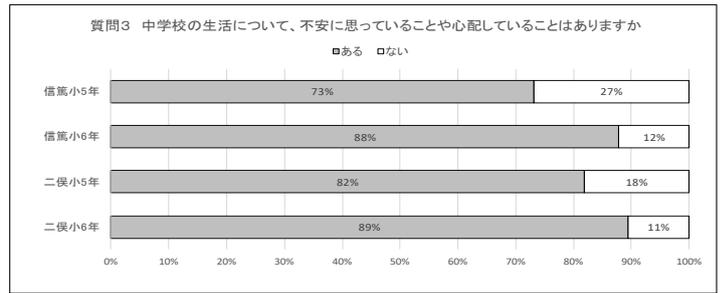
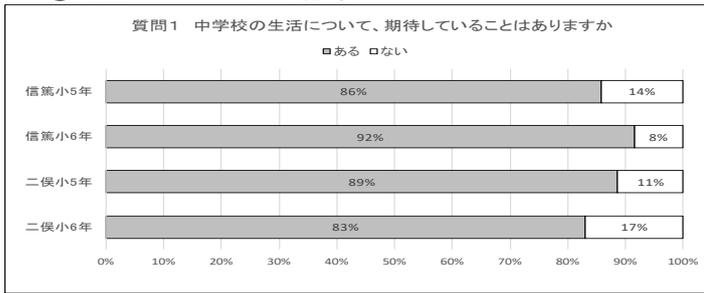
※協議の内容は、意見等を出来るだけ詳しく記載し、検討委員会の様子をお伝えすることとしています。

- 小中一貫校に移行することは決まっていないということですが、「義務教育学校の設置を推進します」と市川市の基本方針として書かれています。
- 小中一貫教育の推進は市の方針であり、市川市が積み上げてきたものです。その一つの手段が義務教育学校です。義務教育学校の特別なカリキュラムを考えると、義務教育学校の設置が望まれますが、様々な形態についてご意見をお伺いしたいと考えています。
- 二俣小学校の環境改善として、頻繁な車の出入りを伴う立地が大きな問題であるとされていますが、それを解決するためにどのように考えているのですか。
- 案として出したものは、義務教育学校になった際にはそういった課題も解決できるのではないかと示したものです。これから皆さんの知恵を拝借していきたいと思えます。
- どのような手段を講じれば、保護者の方々が納得できる安全面を確保することができるのか、皆様方のアイデアを頂くのが良いのではないかと思えます。
- 分離型もあり得るのであれば、信篤小と二俣小の4年生までの児童が信篤小の校舎を使い、信篤小と二俣小の5・6年生と高谷中の生徒が高谷中を使うのはどうかと思いました。5年生から教科担任制をとる場合、先生方の移動が大変になるのではないのでしょうか。
- 義務教育学校にするには移行段階があります。移行段階で様子を見ながら、一体型がいいのか、分離型がいいのかを考えていく必要があります。
- 令和30年の日本の人口は8000万人になると言われており、学校数は減ってきます。「市川市立義務教育学校の推進に関する指針」からすると、全市的な問題になってくると思えます。
- 児童生徒数が気になりました。令和元年度は、二俣小、信篤小の児童が9割くらい高谷中に入ってくるようになっていますが、なぜ令和12年になると6割くらいに減るのでしょうか。
- 六中学区が近くて六中に通っている生徒がいます。過去3年分の入学割合を使って集計したもので、その年々で違いはありますが、平成29年度から30年度ではそのようになっています。
- 六中に行っていることは知っていますが、年を追うごとに減っているの、わざと義務教育学校を進めたくてクラス数を減らしているのではないかと疑いたくなります。
- 次回、入学割合の詳細なデータをお示しします。高谷地区の子供の減少予測は市の「公共施設等総合管理計画」の中でも明示されています。決して義務教育学校にしたいからということではありません。
- 人口については全国的に減っていますが、市川に関しては3千人くらい増えています。人数が増えたから子供数が増えるということではありませんが、あまりにも人数が減りすぎではないのでしょうか。また、3・4・13号線が全く進んでいません。原木の2丁目を市街化区域にするのは大変なことだと思います。厳しい状況ではないかと思えます。
- 二俣小学区の子供が、高谷中に通うのに30分くらいかかっています。これが小学校の低学年の子供となると、1時間半くらいかかります。市はバスを考えているということですが、常に乗れるわけではないのではないのでしょうか。歩くとすると、子供たちの安全・安心にはならないと思えます。二俣小に小・中一貫校をつくるのは可能でしょうか。
- 協議の中でバスが必要となれば、こちらで案を具体化して話し合ってください。
- 義務教育学校を実現していくときに、通学路の問題や子供たちの安全安心を確保することなどは、皆さんの協議の中で提案していきたいと思えます。
- 高谷中は、学区の真ん中にあると思っていましたが、田尻の端から子供たちの足でどれだけ時間が掛かるか分かりません。市も実際にシミュレーションする必要があるのではないのでしょうか。
- 義務教育学校が良いか悪いかの前に、子供たちにとって良いか悪いかが一番重要ではないのでしょうか。子供たちがどう思っているのか、それに対して自分たちは何ができるのかが重要だと思います。二俣小から高谷中へという考えは、交通状態がどうかということがあります。逆に、二俣小へ義務教育学校をつくと、部活をやっている生徒たちには通学が大変になるのではないのでしょうか。その時の周りの環境などを考えて、話を進めていく必要があると思えます。
- 児童生徒に意見を聞くことは大切だと考えています。
- 保護者がみんな心配しているのは安全です。不審者のメールがよく来ます。明るい時間でもトラックが通っていて、小さい子供は怖い思いをしています。一貫校の器ができてから、みんなが集まることはできないのでしょうか。
- どう教育を進めるのか、どう器をつくるのかを考えた時に、ある程度スタートしていないと反映できないと考えています。

6 協 議

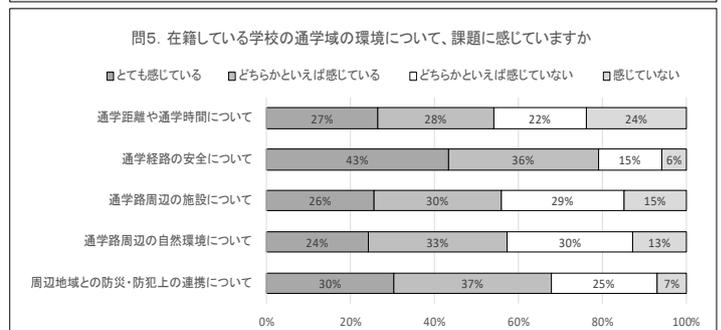
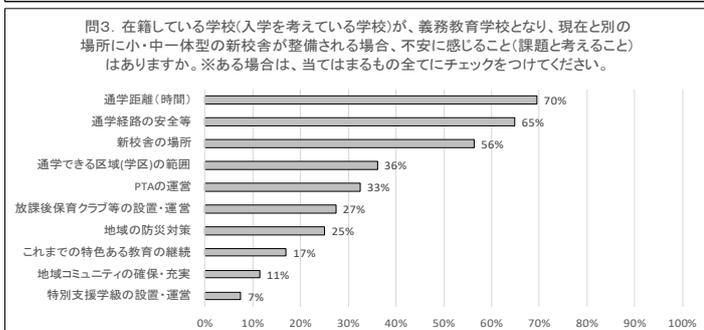
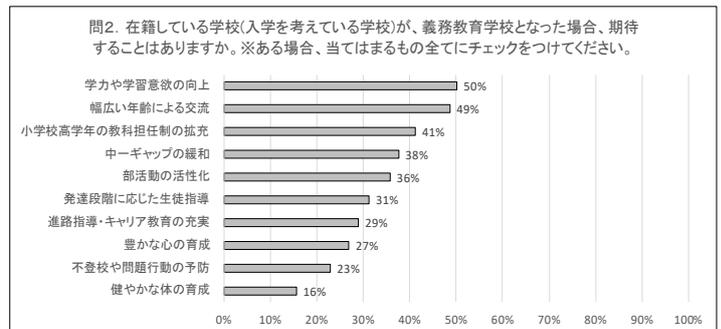
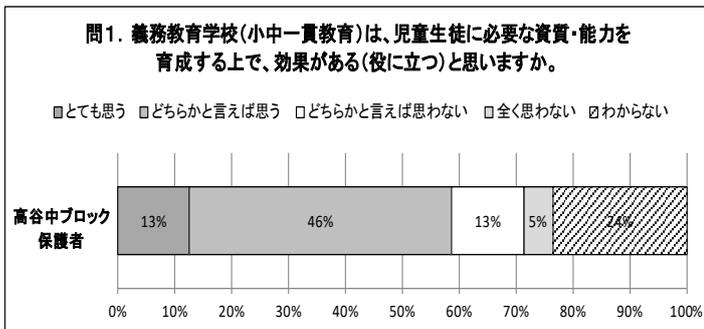
(1) 提案の概要 (※アンケート結果の詳細は、ホームページに掲載しています)

①児童アンケートの結果



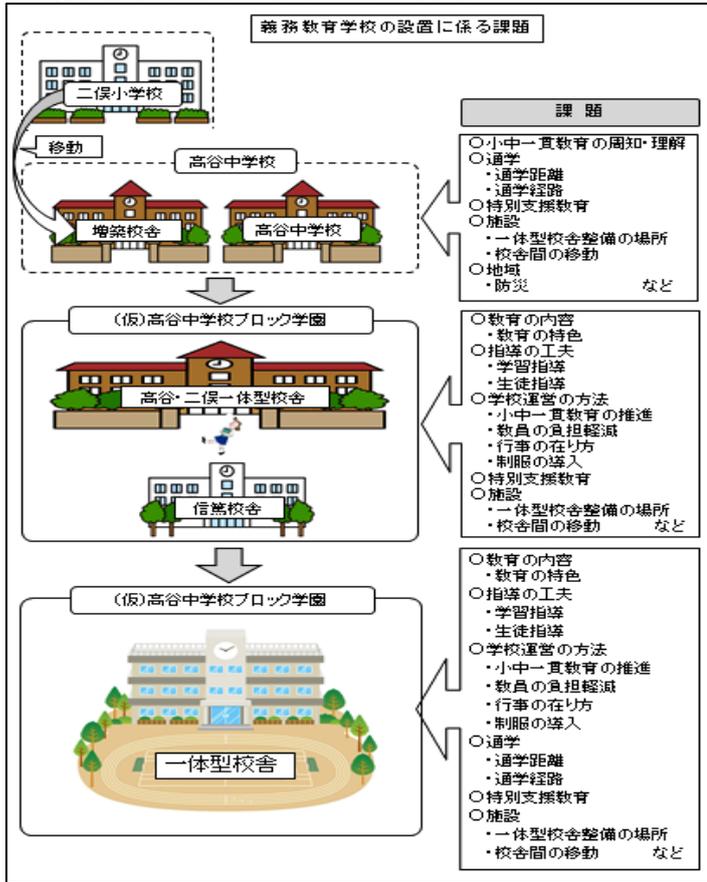
- ・この結果は、小中一貫教育を進める上での中学校段階での指導の工夫や、指導の重点の設定に生かしてまいります。
- ・どの学校でも、部活動や友達、行事のことなどに期待をしている児童が多く、小学校と違う経験や新しい友達との出会いに期待をしていることが分かります。
- ・不安や心配については、勉強や友達のこと、上級生や進路などに多くの児童が不安を持っており、中学校進学時には、学習指導や生徒指導を丁寧に行わなければいけないことが分かります。

②保護者アンケートの結果



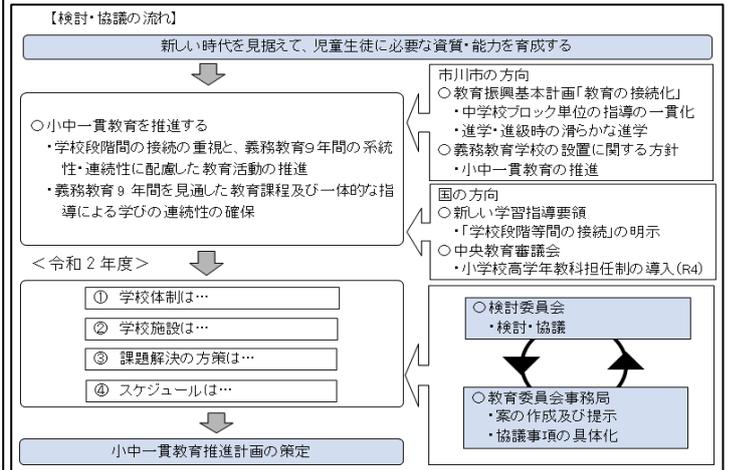
- ・「義務教育学校(小中一貫教育)は、児童生徒に必要な資質能力を育成する上で、効果があると思いますか」という設問については、肯定的な回答が約6割、否定的な回答が約2割、「分からない」が2割強となっています。これは、塩浜学園の小中一貫校開校前の結果とほぼ同じとなっています。
- ・義務教育学校へ期待することについては、「学力や学習意欲の向上」「幅広い年齢による交流」「小学校高学年の教科担任制の拡充」が多く、学校運営の重点化を図る上で、この結果を生かしていく事が大切だと考えます。
- ・義務教育学校となり一体型校舎を整備する場合には、通学距離や時間、通学経路の安全、新校舎の場所に多くの保護者が不安や課題を感じていることが分かります。
- ・在籍している学校の通学区域の環境については、どの学校でも、通学経路の安全性に課題を感じている方が多く、高谷中学校ブロック全体の課題であると考えています。
- ・保護者アンケートの自由記述は、「アンケート結果の詳細」に掲載しています。

③義務教育学校の設置に係る課題



④今後の協議の進め方について

- 検討・協議は、丁寧に、相応の時間をかけて進めます。
- 中学校ブロックの小中一貫教育推進計画を作成します。
- 計画作成の協議の中で、以下の点を明らかにします。
 - ①小中一貫教育推進の学校体制の在り方
 - ②学校体制の在り方を具現化し、実効性を高める学校施設の在り方
 - ③学校体制及び学校施設の在り方を具現化する上で生じる課題の解決策
 - ④学校体制及び学校施設の在り方を具現化するためのスケジュール
- 推進計画に沿って、小中一貫教育の推進(義務教育学校の設置等)に向けた具体的な取組を進めます。



③義務教育学校の設置に係る課題

- ・義務教育学校設置については、それぞれの段階で「教育の内容」「指導の工夫」「学校運営の方法」「特別支援」「通学」「施設」「地域」「周知」など、多岐にわたって様々な課題があります。このため、今後の協議については、提案の修正・改善も含めて、時間をかけて丁寧にやってまいります。

④今後の協議の進め方について

- ・大きな方向を決めるには細かい課題への対応の議論が必要であり、今回のアンケート結果を踏まえて、相応の時間をかけて、丁寧に話し合っていく事が重要だと考えています。
- ・小中一貫教育の推進は、新しい時代を生きる児童生徒に必要な資質・能力を育成する上で必要であると考えています。これは、市川市教育が目指す方向であり、国が示す方向でもあります。
- ・しかし、小中一貫教育をどのような学校体制で進めるのか、そのために学校施設はどうするのか、それらを具現化するために課題をどのように解決していくのか、どのようなスケジュールで進めるのか、といったことは、検討委員会の議論を踏まえて、具体化していくことが重要であると考えています。
- ・具体的には、検討委員会での協議を踏まえて事務局が案を具体化し、それをまた検討委員会で検討するといったサイクルを重ねながら、高谷中学校ブロック独自の小中一貫教育推進計画を策定します。

(2) 協議の内容 (○：委員長及び委員 ●：事務局)

※協議の内容は、意見等を出来るだけ詳しく記載し、検討委員会の様子をお伝えすることとしています。

○一つ一つの課題を、時間をかけて丁寧に協議をすることが大切だと思います。本来ならば、地域の真ん中に一体型校舎という最終的な形ができるのが望ましいと思います。都市計画や土地の買収など、色々な問題が出てくると思うので、すぐにはできないと思っていますが、その中でどういう風にしていったら良いのか。中学校の先生方がそれぞれの校舎に行くのは大変です。1年生から4年生は信篤小、二俣小のそれぞれで学び、5・6年生からは新校舎で学ぶという案もあるのではないのでしょうか。

- 自由記述に書かれている課題を丁寧に解決して進めていくことが、一番重要だと考えます。中学校の教員には厳しい部分がありますが、例えば午前中に小学校校舎へ行って、午後に戻ってくるならば出来るかも知れません。
- 自由記述には課題や不安が多く書かれていますが、どんな学校になっていくのかという期待も書かれています。子供たちにとってこんな学校だったら良いなと思っている保護者の方も多くいます。丁寧に話し合いを進めていって、みなさんの理解を得ながら、最終的に子供たち、地域や保護者が義務教育学校にして良かったと思えるようにしていくことが大切です。検討委員会の皆さんの意見を聞きながら、義務教育学校ありきではなく、高谷中ブロックの小・中が今後どうあるべきかを検討していきたいと願っています。
- 問題解決のためには、この検討会で問題を洗いざらい出し、市に提案する内容の方向をまとめていきたいと思えます。お互いに出す意見を保障し合いながら進めていきたいと思えます。
- 小中一貫教育には賛成です。施設開放で学校と関わっていますが、義務教育学校になった時に二俣小学校の体育館を残せるのかどうか。今後利用団体が増えた時のために必要ではないでしょうか。また、義務教育学校にしたときに、学童の敷地も考えて欲しいと思えます。
- 信篤・二俣地区に調整区域があるので、県と市が地権者の方々に提起し、地域全体で話し合っていかななくてはならない問題です。長い目で地域住民と話し合っていく必要があると思えます。
- 自衛隊の官舎が無くなってしまったことが残念であり、どうにかならなかったのかと思っています。今の倉庫ができたことで二俣小学校の環境が一気に悪くなり、二俣小学校に通おうと思う保護者が減りました。新しいことをする際には、保護者の意見をその都度聞いて欲しいと思えます。時間が経つ、月日が経つ、年数が経つと保護者の考えもどんどん変わっていくので、そのときの気持ちを大切にしたいと思えます。また、今、二俣小学校に通っている子供たちはとても危険です。義務教育学校ができるまでには時間が掛かるため、まずはそこを考えて欲しいです。
- 塩浜学園は元々隣同士でしたので、今回とは違います。高谷中ブロックと同じような条件で施設分離型を実施している学校の情報をもう少し頂けると、より良く進める材料になるのではないかと思います。
- 義務教育学校にする一番の理由は、系統性、連続性を重視した教育になると思えます。小・中が同じ教育方法、カリキュラムとしたときに、子供たちに今とは比べものならないほどの効果があると思えます。但し、信篤小で学習している1年生と高谷中で学習している1年生がいては、何のための義務教育学校なのかと思えます。同じ歩調で発達段階に応じた教育内容、教育方法で進んでいくためには、同じ学年の子は同じ校舎で行い、同じ学年の教師がいつでも話し合える環境にしておかないと、義務教育学校の良さが出ないのではないのでしょうか。地域の真ん中に一体型校舎が良いと思えますが、分離型にしたときは、同じ学年の子供たちが同じ校舎にすることが最低ラインではないかと思います。
- 塩浜学園が地域に根付いてきたと感じています。塩浜とこの地域は比べられないので、学校、地域、市が丁寧に話し合う必要があると思えます。今の子供たちを育てるためには、より多くの目で支えることが大切だと思えます。小学校の先生は広く見ることができ、中学校の先生は大きく見ることが出来ます。小と中の先生が話し合うことで子供を育ていき、個に応じた指導や特別な支援を要する子たちを多くの目で育てていくことが大切だと思えます。
- 塩浜学園でも学校文化の壁は高く、一人の子どもについて語り合うまでに数年掛かりました。校舎が一緒になる前に、組織を一緒にして、話し合いの機会をたくさんつくるのが大切だと思えます。
- 別の機会に、塩浜学園の先生に来てもらって話をしてもらったり、検討会のメンバーで見に行ってもらったりしたいと思います。
- 原案だと高谷中に二俣小が来て、信篤小との二か所で行うこととなっています。先生方が行ったり来たりするのは出来るのでしょうか。先生方の過重労働が問題になっています。テストの丸付けをするなどしていた空き時間が義務教育学校にすることで無くなってしまうと、放課後に行くということになるのではないのでしょうか。先生方の勤務環境が心配になります。
- 教育改革を進めるが、過重労働では働き方改革が進まないとの指摘です。分離型では、どのようにクリアしているのかといった事例を、事務局から紹介しながら議論をしていきたいと思えます。丁寧に議論をつくり、子供たちの学びの環境を一步、さらに一步と進めるために、ここで知恵を出さなくてはならないと思えます。議論をつくり、みんなで良い案を出し、未来の子供たちの期待に応えたいと思えます。